



物語の始まり

波照間診療所 医師 宮島 一実

はじめまして、今年度から波照間診療所に赴任した宮島です。昨年度まで2年間、南部医療センター・こども医療センターに勤務しておりました。

前任の医師が島を去る直前の3月末、診療開始と業務引き継ぎを目的に一人で波照間島に渡りました。初日の昼、私が宿泊する民宿の女将さんが「めえーめえーが死んじゃった！ミルクない！？」と、慌てて診療所に駆け込んできました。詳細を聞くと、飼育しているヤギが出産中であつたが難産で1頭の子ヤギを産み落とした後に死んでしまったということでした。女将さんは子ヤギのため、代替のヒト用ミルクを探していました。女将さんの焦りからは一刻を争う事態であると伝わってきましたが、島内には離乳が済んだ子どもしかおらず、島の売店には赤ちゃん用のミルクは売っていません。

私が「島ではそんなこともあるのかぁ。」とぼーっとしていると、診療所の看護師と前任医師が「宮島先生の荷物にミルクって書いてあった！」と言い出しました。私は前もって郵送していた引っ越しの荷物を診療所へ置かせてもらっており、その中に当時8ヶ月の次女のミルクが入っていたことをすっかり失念していました。女将さんへミルクを渡し、結果的にそのミルクのお陰で「新めえーめえー」は一命を取り止めました。そんな非日常な出来事を初日から体験し、これからの待ち受ける島での生活がいかにドラマチックになるのか期待が高まりました。

“新めえーめえー”は今もすくすくと育っています。後日遅れて島へ移住した私の家族も“新めえーめえー”に会うことができました。次女と“新めえー

めえー”は同じ釜の飯ならぬ、同じミルクで育った同級生であり、これからこの島と一緒に成長していくこととなります。

島民の皆さまは出会ったばかりの若造の自分を“いしゃんぶやー”と呼んでくれます。そしてたくさんのモノやコトを僕と家族へ与えてくれます。当初わからなかった“ぶやー”という敬称の意味を知り、自ずと医師として、一島民として島のために尽くしたいと思うようになりました。どちらかといえば医師としての使命感というより、一島民の自分がたまたま医師なので、医療をもって島民皆さまへ恩返しができるという感覚に近いです。

期待通り、ここでは「俺にかかれば満席でも乗せてやる」「新めえーめえー屋根に脱走」「約100頭の野生ヤギ」etc.と話始めたら終わらない（ここでは話せない）エピソードが次々に生まれます。いつか波照間島でお話しますので、ぜひ遊びに来てください。



今年もやります！

八重山病院お仕事体験ツアー

昨年夏に開催し、好評をいただいたお仕事体験ツアーの開催が今年も決まりました。詳細については、後日ホームページ等でもお知らせいたします。

日時 令和7年10月25日(土) 13:30～16:15(受付13:00～)

場所 沖縄県立八重山病院 対象 小学4～6年生、中学生

内容 病院のさまざまな職業の体験



やいまむん

沖縄県立八重山病院広報誌(令和7年9月発行)

発行 / 沖縄県立八重山病院
編集・企画 / 沖縄県立八重山病院 広報委員会

〒907-0002 沖縄県石垣市真栄里584-1
TEL:0980-87-5557(代表) FAX:0980-87-5835



沖縄県立八重山病院広報誌

やいまむん

Vol.16
2025.9



表紙写真：総合診療科医師

- 鳩間島巡回診療について
- お～りと～り八重山病院
- 次世代につながる『ふれあい看護体験』
- 放射線技術科の紹介 ～MRI検査～
- 診療所だより（波照間診療所）
- 今年もやります！八重山病院お仕事体験ツアー

鳩間島への巡回診療について

総合診療科 医師 甲藤 大智



鮮やかな「鳩間ブルー」の海。その中にぽっかりと浮かぶ周囲わずか4キロの鳩間島。人口約50人、穏やかな時間が流れるこの島が、月に一度、私の大切な「診療所」になります。

総合診療科の甲藤大智（かっとうだいち）です。研修医を終え、東京・神奈川での暮らしから一転、ご縁があって2024年にこの八重山の地へ赴任しました。人生とは面白いもので、自分が島の医療に携わるとは想像もしていませんでした。

赴任して間もない4月、「鳩間島の巡回診療に行つて」と酒井先生に言われました。最初の2ヶ月は先輩医師と同行し、内地では決してできない経験に胸を躍らせていました。しかし、突然、「じゃあ、今日からは一人をお願いします」。研修を終えたばかりの身には、あまりに衝撃的な独り立ちの宣告でした。

鳩間島へは、まず西表島の上原港まで渡り、そこから地元の方の船に乗せてもらって向かいます。その小さな船に乗り込む時は、一人で診療を担うという大きな不安を感じています。私のカバンに入るのは、聴診器に血圧計、体温計といった基本的な診察器具のみ。この巡回診療には、地域研修でやってくる研修医も同行しますが、彼らに離島医療の現場を実際に経験してもらうことも、私の大切な役割の一つです。

鳩間島は、島に小中学校はあるものの、診療所や警察

の駐在所がない島です。そのため私たちの診療は、公民館である「鳩間島コミュニティーセンター」の一室で行います。当然、レントゲンや血液検査の機械もありません。だからこそ頼りになるのは、島民の方々の言葉にじっくりと耳を傾ける「問診」と、五感を研ぎ澄ませて行う「身体診察」です。それは、医師としての原点が試される場でもあります。

回を重ねるうちに、島の方々が私の顔と名前を覚えてくださるようになりました。「先生、この前の薬、よく効いたよ」。診療の場で交わす何気ない会話が、何よりの励みになります。月に一度の訪問ですが、確かに私はこの島の「島医者」なのだという自覚が、少しずつ芽生えていきました。

今年は島の一大イベントである鳩間島音楽祭にも参加し、住民の方々と交流する中で、その絆がまた一つ深まったと感じています。この温かいつながりこそ、私の医師人生におけるかけがえのない財産です。

これからも島の皆さんの日々の暮らしに寄り添い、この美しい島で安心して生活が送れるよう、その一助になりたい。私にとって月に一度の鳩間島への航路は、島民との約束であり、医師としての原点を確認するための大切な時間なのです。



お〜りと〜り八重山病院

経営課長 有川 隆

けーらんねーらー くよーんなーらー 八重山に暮らす地域の皆さん、こんにちは。

沖縄県立八重山病院の経営課からの寄稿です。

今回は、当院の経営状況についてお伝えしたいと思います。

八重山病院は、八重山地域の中核病院として、救急医療、小児・周産期医療、離島・へき地医療、精神医療等の政策医療を提供するとともに、地域医療の確保に努めております。

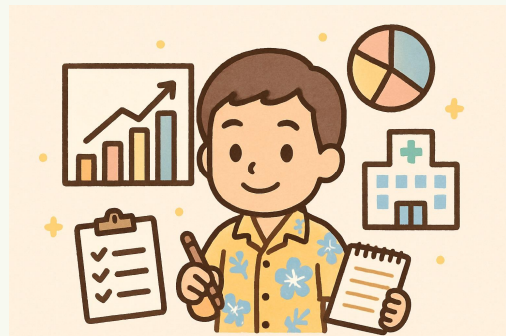
県立病院が担う不採算な医療は、国や県からの補助金や繰入金により運営していますが、原則的には独自で採算が取れるように経営することが必要になります。

昨今の報道でご存知かと思いますが、コロナ禍以降の入院患者数の減少、物価高騰や賃金上昇により病院経営は非常に厳しい状況です。大ピンチです。

八重山病院がこれからもずっと医療を提供するには、地域の皆さんに選ばれる病院になることが第一だと思います。病院職員としては、地域の皆さんに選ばれる病院になるために努めていきたいと思っています。そして、八重山病院で働く医師や看護師等の医療従事者の確保も必要になります。

地域の皆さんに選ばれる病院になること、医師や看護師等の医療従事者が働きたい病院になることをの願いをこめて「お〜りと〜り八重山病院」というタイトルにしました。八重山地域の皆さんと八重山病院が共に歩んでいくことが八重山の医療を守ることになると思います。

今後ともよろしくお願いいたします。



次世代につながる『ふれあい看護体験』

看護部 副看護部長 宮城 由美



看護部では（公社）沖縄県看護協会と協賛し、毎年5月12日の「看護の日」に合わせ、「ふれあい看護体験」を開催し好評を得ています。昨年、中学生にも拡大して欲しいと声があり、今年は5月13日、23日の2日間に分けて高校生25名・中学生24名、合計49名の学生が看護体験に参加しました。ユニフォームに着替え、緊張しながらも好奇心いっぱいの表情で楽しく参加する学生から私たちも元気をもらいました。

今回、新生児室での赤ちゃん抱っこにご協力頂いたお母さんがいました。その方はなんと、学生の頃にふれあい看護体験に参加した後、看護師になる夢を実現しており、学生時代に看護体験をすることの大切さを感じていたのです。ふれあい看護体験が看護職を目指すきっかけとなり、次世代の看護職の人材育成に繋がっていると実感しました。

これからも、島の学生が看護に触れることのできる場を提供していきたいと思います。



血圧の測り方、車いすやベッドの上での(病衣)着脱体験を通して、患者さん目線で考えられていることを体験できました。



赤ちゃん抱っこで小さくてもとっても大きな命の重さを感じました。



私も将来、人の命を救ったり手助けをする人になって石垣島の医療をもっと増やせるようにしたいと思いました。



将来、看護師を目指しているので申し込みましたが、よりいっそう看護師になりたいと思いました。



放射線技術科の紹介～MRI検査～

放射線技術科 放射線技師 伊良波 文梨

私たち放射線技術科は、放射線技師13名（うち女性技師4名）、放射線科医1名、受付事務員1名の計15名が配置されています。当科では、一般撮影室2台、移動型X線撮影装置5台、CT撮影装置1台、MRI装置1台、X線TV装置2台、血管撮影装置1台、歯科パノラマ撮影装置1台、乳房撮影装置1台、X線骨密度測定装置1台を保有しています。今回はその中でも、MRI装置についてご紹介させていただきます。

MRI検査は、強力な磁石と特殊な電波を用いて体の内部を画像化する検査です。体内の水素分子の反応により、脳・内臓・筋肉・関節などの細かい構造まで鮮明に画像化することができます。また、造影剤を使用する検査では、お薬を体内に投与することで病気の性状がより詳しくわかります。さらに、CT検査をはじめとした他の検査と違い、X線を使わないため、被ばくがないことも大きな特徴です。

検査時は、ベッドに横になり、トンネル状の装置に入っていただきます。撮影時間は部位や方法によって異なりますが、20～50分程度です。検査中は工事現場のような大きな音がしますが、少しでもリラックスしていただけるよう、ヘッドフォンを装着し音楽を流しながら検査を行います。また、呼び出し用のブザーをお渡ししますので、非常の際はすぐに検査を中断することができます。



注意点として、MRI室は磁力が非常に強く、金属類（時計・スマホ・アクセサリ・補聴器など）は持ち込めません。また、やけどのおそれがある湿布や貼付薬も外していただきます。体を動かすと画像がぼやけてしまうため、体を動かさずに受けていただくことが大切です。そのために撮影部位の固定をさせていただく場合があります。窮屈に感じるかもしれませんが、ご了承ください。

皆さまに安心して検査を受けて頂けるよう、患者さま一人ひとりに寄り添った対応を心掛けています。不安なことがあるかたは、事前にスタッフにご相談ください。